

## 2. 色彩

- 豊島区景観計画では、建築物または工作物に係る景観形成基準の中で、景観形成地特別地区は地区ごとの、一般地域は一律の色彩の数値基準を設けています。
- 色彩の数値基準は、周辺の景観から過度に目立つ派手な色や暗い色、明るい色を抑制するもので、色彩の検討にあたっては、数値基準に適合することはもとより、個々の計画地において、周辺の街並みの色彩特性を把握し、街並みとの調和を考慮することが必要です。

### 色彩の調和の考え方

- 色相、明度、彩度、いずれかの要素を類似の範囲内に設定することで、まとまりのある景観を形成することができます。

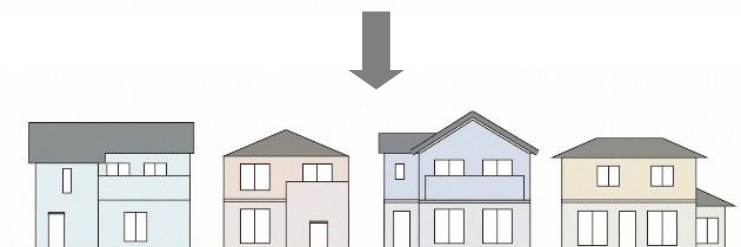


#### 色相調和

色相を同一あるいは類似の範囲内に設定することで、街並みの色彩に連続性や共通性を持たせる配色。明度や彩度に変化をもたせることで、メリハリのある雰囲気を得られます。



バラバラな色彩で調和にかける街並み



#### 色調（トーン）調和

トーン（明度・彩度）を同一あるいは類似の範囲内に設定することで、街並みの色彩に連続性や共通性を持たせる配色。中明度・低彩度のトーンではおだやかですが、変化のある街並みになります。

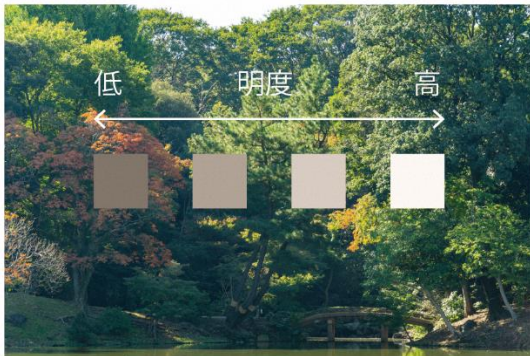
### 適切な明度差を検討する

- 小さな明度差では、適度な変化をつくることができ、きめ細かなデザイン性を表現することができます。一方、明度差が大きすぎると、コントラストが強調され、主張の強いイメージとなってしまいます。

## 地域特性から色彩を検討する

- 色彩を検討する際には、周辺地域の色彩特性を把握し、背景となる街並みとの調和を考慮した色彩の検討が必要です。

### 自然豊かな地域とビルが建ち並ぶ地域の違い



みどりに囲まれた自然豊かな地域と都市部のビルが建ち並ぶ地域では、同じ色彩や素材であっても見え方が異なります。自然豊かな地域では、白などの明度の高い色の建物は、みどりと対比が大きく目立ってしまいます。明度を少し抑えた、落ち着いた色を使用しましょう。

### 商業地などの賑やかな地域と住宅地などの落ち着いた地域の違い



商業地などの賑やかな地域と住宅地などの落ち着いた地域では、景観を構成する建築物や看板などに用いられる色彩が異なります。広い範囲の色相や明度の色彩が見られる商業地では、にぎわいを演出するのに効果的なアクセントカラーも、暖色系の落ち着いた色彩でまとまっている住宅地では過剰になってしまう場合があります、注意が必要です。

## 素材特性から色彩を検討する

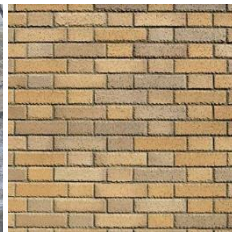
- 近景から見た場合には、同じ色彩であっても使用している素材の質感や光沢感などによって、景観の印象が大きく変わります。
- 人の目に近い低層部や外構部、サインなどは、素材の選択より、豊かな表情をつくることができます。

### 自然素材など



**乱形石材**

重厚で落ち着いた  
雰囲気となる



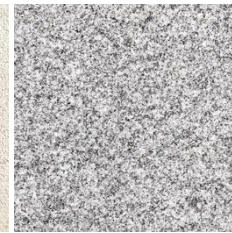
**レンガ**

古典的で温かい  
雰囲気となる



**漆喰**

表面の仕上げで  
様々な印象となる



**御影石**

硬質で重厚な  
雰囲気となる



**板壁**

柔らかく温かい  
雰囲気となる

地域の特性に応じて、石材や木材などの自然素材やレンガをはじめとする焼き物素材などの素材感豊かな材料を人の目に近い位置で使用することにより、表情豊かな街並みとなります。

塗装には多様な仕上げが用意されており、塗装表面が平滑面か粗面かなどの仕上げ方法により、様々な表情をつくることができます。